

からしだね  
KARASHIDANE

「言ことばは肉にくとなって、わたしたちの間に宿あいたられた。」

※「言」は、イエス・キリストのことです。(聖書：ヨハネによる福音書1章14節より)

からだを壊すと、色々なことに気づきます。今まで持ち歩いてきた物の重みを感じたり、自分のからだの重みや、骨のかたちを意識するようになるのではないのでしょうか。歩くのもゆっくりになり、その分、日光に当たったり、周りを見渡すことが多くなります。道端に咲いている花に気づくこともあります。

からだが思うように動かず、できていたことができなくなると、やらなくてもいいことをずいぶんやってきたと気づかされます。

ネガティブなことばかり書いていますが、クリスマスは、神の子であるイエスが人間のからだをもって生まれた出来事です。からだをもっていきますから神といえども完全無欠といかず、疲れたり、飢え渴くこともあります。攻撃されれば傷つきます。人間の一生における苦しみや喜びを、神様ご自身がからだをもって体験され始めた出来事がクリスマスです。

からだをもって生きる以上、様々なものを「受」けます。聖書おける「受」という字は、人間の生のありさまをあらゆる重要な言葉に使われています。たとえば聖母マリアがイエスを身ごもった出来事は「受胎(じゅたい)」と言います。受胎により、マリアはイエスを受け入れ、自分の人生が変わることも受け入れます。また、イエス・キリスト自身の人生は、人を愛しながらも見捨てられ、他者のために十字架につけられて死ぬ「受難」の生でした。

聖書のメッセージは、「あなたをイエス様は受け入れる」ということです。私たちが上手くいくときもいかないときも、イエス様は私たちを見守り、私たちの声に耳を傾けておられます。イエス様は神様なだから願いを叶えてほしいとも思うのですが、それよりも前にまず受け入れるのです。受け入れるとは、相手を見て、聴き、一緒にいることです。

たとえば私たちは、困っている人が目の前にいると、相手の目を見たり、相手の「つらい」という訴えをよく聴かないまま、自分の頭の中で相手を分析・判断し、返事や助けの手を出してしまうことがあります。そうしていれば「私はしてあげた」ことに安心していただけるからです。ところがこのような接し方は、仮に何かしてあげたとしても、相手に「受け入れられていない」と不安を抱かせることがあります。逆に何もしてあげられられず、沈黙が続いたとしても、「つらい」という訴えがきちんと受け止められれば、相手はその状況を受け止めて生きることができるかもしれません。

イエス様は、徹底的に人と「共にいる」ことを大切にしました。何かをしてあげる前に、まず相手をまるごと受け入れたのです。イエス様に受け入れられる体験は、その人を変えます。何かをしてもらう/してあげる前に、たとえ沈黙があっても、共にいて受け止められる/受け止める生があることに気づくのです。

日本福音ルーテル清水教会・小鹿教会 牧師 秋久潤

\*私たちの教会は、宗教改革の流れを汲むプロテスタント教会です。

清水教会 <http://jelc-shimizu.sakura.ne.jp/> 小鹿教会 <http://jelc-oshika.c.ooco.jp/>

## 信仰と行い

(8月26日に行った奨励の概要)

小鹿教会 芳賀直哉

ルターは、ヤコブの手紙を「藁の書簡」として価値を認めなかったとされてきました。

ルターは『ドイツ語訳新約聖書』を、1522年9月Wittenbergで出版しましたが、これに『新約聖書への序言』を付けています。そして『序言』の最後の部分に「新約聖書の正しく最も貴重な書はどれか」と見出しのついた箇所があり、次のように述べています。

ヨハネ福音書、パウロ書簡（特にローマ人への手紙）、ペテロの第一の手紙が新約聖書のすべての書のうちで真実の中核または精髓であり、当然第一のものである。これに比べれば聖ヤコブの手紙はまったく藁の書である。何ら福音的な性格をそなえていない。

(石原謙訳『キリスト者の自由』

岩波文庫 66 ページ)

しかし、ルターはその後 1530年以降の「新約聖書への序言」では、自ら、後段の「最も貴重な書はどれか」の部分を削除しました。

新約聖書各文書の価値評価・序列付をすることは問題があると考えたのでしょうか。このように、後には「藁の書簡」云々も削除されたのですが、ルターが当初ヤコブ書を評価しなかった理由は何でしょう？大きく以下の3つの理由があるように思います。

(1)「ヤコブの手紙」は、「信仰」ととともに「行為」の重要性を強調しており、特に2章24節には「人が義とされるのは行いによるのであって、信仰だけによるのではない。」という文章があり、「信仰によってのみ救われる」信仰義認説をとるルターには容認できないもの。

(2)パウロやペテロの書簡の中心となっている「キリストの十字架による救済や復活」になんら言及していないから、使徒的書簡でないという判断。

(3)12弟子の一人でセベダイの子ヤコブ（使徒ヨハネの兄か）が書き手だとすると、彼は、60年頃パウロやペテロがローマで殺されるよりも前に、55年ごろエルサレムでヘロデに殺されている（使徒行伝12章1～2

節) ので、「ヤコブの手紙」のなかに「柔和な行い」(ペテロ第一の手紙 1-15) という文言を使用しているのは歴史的に言っておかしい、後世の人物が書いた「偽書」ではないか。

上記(3)について言えば、書簡の書き手が 12 使徒である「ヨハネの兄弟ヤコブ」ではなく、「イエスの弟ヤコブ」だとすれば、イエスの言行を間近に見聞きしていた人物の書簡であり、新約聖書に採用された理由はあります。

日本基督教団出版会から出ている『新約聖書略解』(1966 年改訂版) の「ヤコブの手紙」の項目では、「イエスの兄弟ヤコブ」の名を使って 2 世紀前半ごろに成立したものと説明があり、当時、信徒のなかに、パウロの信仰義認の教えを誤解して「実践を軽んずる者」や、「貧しい者をさげすむ者」、「むさぼり、ねたみ、争い、高ぶる者」などかいた、そうした信徒に対して「戒め教える」ことが、「ヤコブの手紙」の目的だったと解説しています。

また、最初に紹介した『新約聖書への序言』には、各論にあたる

各福音書やパウロ書簡ほかへの「序言」も含まれ、「ヤコブの手紙とユダの手紙の序言」では、「ヤコブの手紙は、初代の人々の廃棄したところのものであるが、私はこれを称揚し、やはり優れたものだと思う。」ともルターは述べているそうなので(岩波文庫の解説文)、この書簡がまったく無価値だとは考えていなかったのではないかと思います。

神の恵みに安住し、こころの平安のみを追求して、「世の光・地の塩」であるべきキリスト者の社会的役割を小さく限定する傾向がルーテル教会にはあると思います。イエスによって顕された神の大いなる御業を、「安価な恵み」(倫理性なしの救済論) にしてしまいう危険性があります。

そのような警告を忘れないためにも、キリスト来臨が近いとの終末論的緊迫感が希薄となり、キリスト信者としての善き行いをないがしろにした 2 世紀初頭の教会信徒への「戒告の教え」である「ヤコブの手紙」は、今日の信徒にとっても決して無意味なものではないと思います。

## 「癒しのシスター」

清水教会 山本 進

今年夏、NHKの「人生レシピ」という番組で病院を訪れてボランティア活動をしている鈴木秀子さんのことが紹介されておりました。彼女自身86歳の高齢にもかかわらず、とても元気そうで長年病気で苦しむ人のために声を掛けているようでした。

番組内で訪れた特養には、92歳の女性が寝たきりで、見るからに苦しそうにしていますが、鈴木さんがその女性の手を取り、語りかけ、祈り、しばらくするとなぜか本当に平穏な表情に変化していくのには驚きでした。傍らの娘さんも「さっきと変りましたね。」と言っているのです。

私は、20年以上も前に彼女のことに興味を持ったわけですが、彼女は本を書かれた当時、聖心女子大の国文学の先生でシスターでもあり、学生の頃は曾野綾子さんとも交際があったようです。

現役のお仕事で、宿泊した修道院の高い階段から誤って転落する事故にあい、幸い大きな怪我ではなかったものの、その時、不思議なことが起こりました。

一時彼女の意識は身体の外に出て、言葉では言い表し難い光の中で平安と喜びにつつまれたと言います。5時間余り意識がなく、その後、ひと月ほど療養生活を送ります。しかし、その時の気持ちは彼女の心を満たし続け、自然の美しさがかつてない程、目にしみたようです。彼女は事故のとき、肉体的には意識がなかったものの、番組中で次のように語っております。

「取り巻いている全体が金白色の素晴らしい光に満ちていて、その中に私が立っているのですけど、満たされているのです。ああ、無条件の愛とはこういうものだ、というのをとても強く感じたんですね」

本の中では彼女自身が難病の膠原病を患っていたと書かれています。ところが、療養後に掛かり付けの病院で検査すると、驚くべきことにそれは完治していて医師もびっくりします。

彼女は「永遠なる生命の光の中に、例外なくすべての人が受け入れられている。その圧倒的な愛の力を感ずることが出来たら、大宇宙の氣にぱっと入ることが出来て、病気も治ってしまう」「あの光との出会いを思い出すたび、頼りなく思える肉体の奥に、こんこんと湧き出る泉のように、命の輝きがほとばしっているのを感じます。」と述べ、これらはキリストの言葉に重なる気も致しました。

この世にあってそれを越える不思議な光と力が鈴木さんのほうから92歳の女性に向かって、内部から働きかけたものがあったのだろうかと思わせる映像でした。シスターは次のようにも語ります。

「親しい人を亡くした時、その人は素晴らしい世界に行ったんだから、その喜びの中に入っているんだから、その人のために喜ぶ。そして、残されて悲しんでいる人のために祈るけれど、亡くなった人のためには喜びを感じずようになった、それがとても大きなこと。」

私自身頼り無い病人で、不信仰なうえシスターの言葉に何ほどの理解力もないものですが、心に光が乏しいがゆえに逆に惹きつけられた番組でした。



## 良子さんのお料理



### コーナー

#### 茄子と豚肉の照り焼き（疲れた体を癒す食べ物）

- ① 豚肉（バラ肉が良い）100g……湯ぶりしてくせをとる  
茄子2本（小さければ3本）……乱切りにする。※茄子は、  
切った後2%ぐらい塩水に5分位つけると焼く時に油が  
中に入らずヘルシーになる。
- ② 油、小さじ1で豚肉を焼く。水切りした茄子も入れて色よく  
焼く。
- ③ 合せ汁 みりん大さじ4、酒大さじ4、しょうゆ大さじ2  
この合せ汁を半分だけ入れて炒め更に残りの半分を入れて色  
よくからめる。
  - ・ごはんの上のにのせて丼物としてきざみ海苔をかけるもよし
  - ・青みを散らして皿盛りしてもよし。

※付け合わせにめんつゆに豆腐をほぐし入れネギをちらし豆板  
醤を少々入れると中華風汁物ができる。

#### おまけ

柚子がでまわっています。ゆずみそは作っておくと便利！！  
冷蔵庫で2週間は保存可能。ふろふき大根やとうふ料理に使  
うとおいしいです。

みそ、砂糖、大さじ3、  
みりん、大さじ2 を鍋に入れてねっとりするまで加熱し、  
ゆずの皮のすりおろし入れ2分ほど煮る。

出来上がり！

## 小鹿教会 教会学校 クリスマス Q&A

クリスマスにまつわる事柄の由来を集めてみました。

### Q1 「クリスマス」という言葉の由来を教えてください。

A 「クリスマス」(Christmas) という言葉は英語の「キリスト」(Christ) と「ミサ」(Mass) からなっており、「キリストのミサ」が元々の意味です。「ミサ」とはカトリックにおける礼拝のことです。

### Q2 イースターは毎年日にちが違うのに、クリスマスは毎年「12月25日」なの？

A イースターは移動祝日、クリスマスは固定祝日と教会で古くから定められているからです。なぜクリスマスは12月25日なのかというと、通説は2~3世紀のローマに普及していたミトラ教が12月25日を「不滅の太陽の誕生日」として祝っていたのに対抗して、キリスト教でもミサを捧げるようになったからだというものです。やがて325年にニカイア公会議において、クリスマスは正式に12月25日となりました。

### Q3 いつまでがクリスマスを祝う時期なの？

A 一般的には1月6日の「公現日」となるでしょう。この日は東方の学者たちが贈り物を持ってイエスを訪ねた日としても記念されます。公現日が1月6日なのは、その日が古代エジプトにおける冬至であったことに起源があるようです。

### Q4 クリスマスツリーを飾る習慣はどこから？

A クリスマスツリーを飾る習慣はドイツ発祥。古代ゲルマンにおける樹木信仰の影響のようです。ツリーに明かりを灯すことを考えたのはルターだったそうです。モミの木がない暑い地域ではバナナやマンゴーの木を飾るそうです。ちなみに、クリスマスカードはイギリス発祥です。また、キリスト誕生の様子を再現した(クリップ〔クリブ〕と呼ばれる)模型や人形はイタリア発祥です。

(季刊 教師の友 2018年10、11、12月 日本キリスト教団出版局より)



## クリスマス・プログラムのご案内



12月1日(土) 午後4時~6時 (小鹿教会)

【こども収穫感謝祭】 パンをこねたりシチューを食べたり、ゲームをしたり、大きなクリスマスツリーを飾っちゃおう!



12月22日(土) 午後2時~4時 (小鹿教会)

【こどもクリスマス会】 今年も小鹿教会でクリスマス会をやるよ。今年も歌って、お話を聞いて、ゲームして、プレゼントをもらって、ケーキを食べて…、楽しいクリスマスにしちゃおう。

## クリスマス礼拝



12月23日(日)

午前9時~(清水教会) / 午前11時~(小鹿教会)

今年のクリスマスは、あなたの町の教会で過ごしてみませんか。

## クリスマスイブ礼拝・祝会

12月24日(月・祝) 午後6時~(清水教会)

木の落ち着いた雰囲気の中、クリスマス・イブの夜をお茶を飲みながら、賛美歌を歌いつつ過ごしてみませんか?



## クリスマス礼拝・ハーモニカ コンサート

12月25日(火) 午後7時~(小鹿教会)

クリスマスの夜を教会で過ごしてみませんか?  
午後8時より、ハーモニカのコンサートが行われます。

## こんなところにもサンタクロースが

映画『この世界の片隅に』の冒頭では、戦前の広島の様子が描かれています。商店街ではサンタクロースの服装をした人が「年の市 大特価」という看板を持っていて、その周りを子どもたちが囲んでいます。本作品は、戦争の悲惨さを描く一方で、「ふつうの暮らし」と「ふつうの幸せ」を大切にしようとしているのだ、と思います。



## <集会案内>

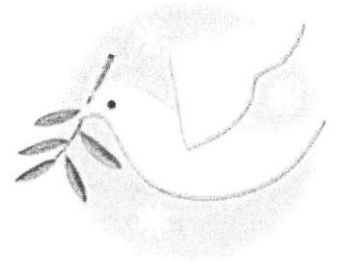
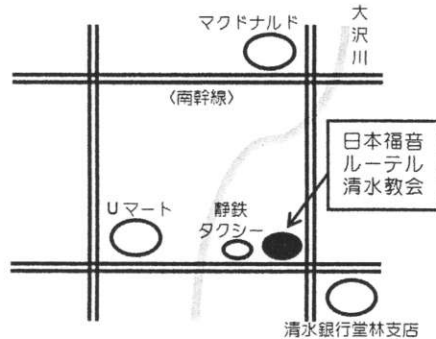
### 日本福音ルーテル清水教会

〒424-0844 静岡県静岡市清水区西高町 16-10

☎054-352-8910 <http://jelc-shimizu.sakura.ne.jp/>

- ◆主日礼拝 日曜日 午前9時～10時30分
- ◆英語聖書朗読会 日曜日 午前8時～9時
- ◆女性会例会 第2日曜日 午後1時～3時
- ◆聖書に聴き祈る会 木曜日 午後1時30分～3時

どなたでも  
ご自由にご参  
加ください。



### 日本福音ルーテル小鹿教会

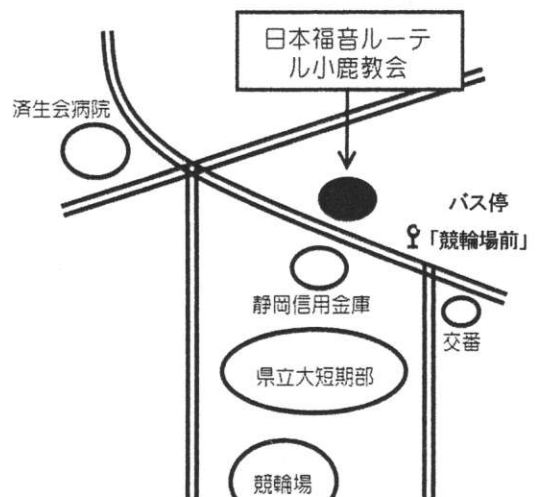
〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿 1-18-11

☎054-285-7725

E-mail: [nre22021@nifty.com](mailto:nre22021@nifty.com)

URL: <http://jelc-oshika.c.ococo.jp/>

- ◆教会学校 (幼児～高校生)  
日曜日 午前9時30分～10時30分
- ◆主日礼拝 (子供を含めてどなたでも)  
日曜日 午前11時～12時30分
- ◆聖書に聴き祈る会  
水曜日 午前10時30分～11時30分  
午後 7時30分～8時30分
- ◆女性会例会  
第2水曜日 午前10時30分～11時30分
- ◆バイブル・キルトの会  
(現在休会中)
- ◆子育て会  
第1金曜日 午前10時30分～12時



静鉄バス美和大谷線「競輪場前」下車徒歩2分